

委員からの意見と論点

必要な機能	委員からの意見	論点
①起業家教育	<p>○<u>県先端産業プロジェクト</u>に高校を位置付け、取組を進めることや、<u>地域部活動</u>のような形で産業界のリードの下、<u>広域的な起業部</u>などにより、高校・大学生などのマインド醸成やチャレンジの場をつくっていくことが必要（水口委員）</p> <p>○<u>大学の研究者に、事業化や社会実装していくための意識</u>を植え付ける施策が必要ではないか。（中村委員）</p> <p>○自分のやりたいことを実現できる、そうした経験を学生のうちに持たせることが大事。（橋本委員）</p>	<p>◎対象者ごとに、起業家教育をどのように実施していくか。</p> <p>①生徒・学生</p> <p>②スタートアップを目指す社会人</p> <p>③大学の研究者</p>
創出 ②新ビジネス創出支援	<p>○静岡県は伝統的な起業・創業で直線的な安定成長を目指す企業が多い。<u>起業予備群</u>をきちんとつくっていく必要がある。（中村委員）</p> <p>○ピッチイベントは、<u>意志決定できる人</u>に向けたものでなければ意味がない。<u>ビジネスマッチングの機会が沢山ある</u>とよい。<u>県内の上場企業とのマッチング</u>ができると面白い。（山本委員）</p> <p>○静岡と東京間の<u>交通費補助</u>があると、東京に行かずに静岡に滞在するスタートアップが増える。（山本委員）</p> <p>○スタートアップは<u>月次決算</u>をしっかりとやるべき。その場合の<u>会計士や税理士に係る経費に対する支援</u>があるとよい。（山本委員）</p> <p>○起業する前に<u>資本政策の知識</u>を教えるべき。（山本委員）</p> <p>○<u>公共調達における優遇措置</u>もよいと思う。（山本委員）</p> <p>○起業の最初に、<u>資金調達計画</u>を先々まで作っておくことが大事。事業をどこまで大きくするか、マーケットがどこかといった<u>目標をきちんと定める</u>ことが大事。（橋本委員）</p> <p>○日本の場合、大企業の関わり方がスタートアップに対して厳しい。<u>大企業側の関わり方も変えていかないとスタートアップが育たない</u>。（橋本委員）</p>	<p>◎スタートアップの現状を踏まえて、県として今後必要な支援策は何か。</p>

必要な機能		委員からの意見	論点
育成	③ノウハウ提供	<p>○大学発スタートアップについては、<u>研究者と別に会社をマネージする人が適切に配置されるかどうか</u>が重要。また、<u>継続して製品・サービスを生み出していけるかが成功の鍵</u>となる。(木村委員)</p> <p>○スタートアップの<u>専門人材、土業が地域に不足している。C X O人材の確保も、課題として聞こえてくる</u>。(加藤委員)</p> <p>○研究者は<u>マーケティングやプロモーションは難しい</u>。それが出来る<u>専門人材とマッチングさせるなど、スタートアップを作るための仕組みづくり</u>が大切。(中村委員)</p>	◎県内に不足しているスタートアップを専門的に支援できる人材や、会社をマネジメントできる人材をどうするか。
	④ファイナンス	<p>○県内の企業に特化して投資を行うVCを新設すれば、多くのスタートアップの創設のきっかけにつながるのではないか。(赤浦委員)</p> <p>○資金調達的手段として「<u>エンジェル投資家</u>」の存在が重要。IPOを考えた場合は、<u>県内に主幹事となる証券会社があるのが望ましい</u>。(山本委員)</p>	◎資金調達について、県独自の支援策を設けるか。
連携	⑤ネットワークハブ	<p>○<u>浜松市以外の地域でも積極的に支援が行われている。各自治体の取組を尊重しながら、県が補足していく</u>ことが必要。(加藤委員)</p> <p>○<u>コミュニティの連携は大事だ</u>と思うが、毎回固定された場所での開催ではなく、<u>様々なところでそのような機会があるとよい</u>ではないか。(加藤委員)</p>	◎県が担うハブ機能として、どのような役割が必要か。
	⑥コミュニティ形成	<p>○イノベーション拠点にいる<u>コーディネーター(コーディネートできる専門人材)</u>に力を入れるべき(中村委員)</p> <p>○支援者とのコミュニティは多いが、<u>直接顧客につながる</u>ことのできる<u>コミュニティの方が重要</u>。(山本委員)</p>	◎スタートアップに係る様々なステイクホルダーの横の連携をどのようにつくるか。
その他		<p>○1社か2社、成功事例が出来ると横展開できる。<u>まずは成功事例をつくっていくことが大事</u>。(中村委員)</p> <p>○場所については、どこがということではなく、<u>東京や海外を含めて、いろいろな拠点の中で静岡県が関わっていく</u>といった柔軟なやり方もあるのではないか。(橋本委員)</p> <p>○この戦略を策定して、<u>どのぐらいの規模の会社をどのぐらいの時間をかけて何社くらい育てるのか</u>。(橋本委員)</p>	◎支援の対象とするスタートアップをどこに定めるか。

戦略の論点と対応案

1 対象者ごとに、起業家教育をどのように実施していくか。

<対応案>

①生徒・学生

現在	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業と連携し、社会課題解決に向けた探究活動を実施 ・SDGsスクールアワード（持続可能な地域社会づくりに主体的に参画する意識やリーダーシップの醸成） ・プログラミングコンテスト等の実施
今後(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に貢献する取組の実現化 ・地域部活動方式による広域的な「起業部」設置

②スタートアップを目指す社会人

現在	なし
今後(案)	○起業に興味のある社会人向け（第二創業者を含む）にアントレプレナーシップ教育に関する講座を実施

③大学の研究者

現在	なし
今後(案)	○大学と連携し、研究者に対するアントレプレナーシップの啓発やアントレプレナーシップ教育を実施

2 スタートアップの現状を踏まえて、県として今後必要な支援策は何か。

<対応案>

○別紙「静岡型スタートアップの支援（案）」

3 県内に不足しているスタートアップを専門的に支援できる人材や、会社をマネジメントできる人材をどうするか。

<対応案>

○まずは、県内外にいる専門人材・経営人材とのマッチング支援の取組を進め、併せて専門的に支援できる人材の育成を図る。

⇒・県内外のスタートアップ支援拠点の連携を強化し、各拠点が有する専門人材や人脈を紹介、お互いに活用を図る

・スタートアップ支援者向けに実践的な支援内容を学ぶ機会を提供（専門人材の育成）

4 資金調達について、県独自の支援策を設けるか。

<対応案>

- まずは、エンジェル投資家やVCとのマッチング支援から始める。
- 県独自のVCの創出等については、東京都等の他自治体の事例などを参考にして、その可能性を含めて研究する。

5 県が担うハブ機能として、どのような役割が必要か。

6 スタートアップに係る様々なステイクホルダーの横の連携をどのようにつくるか。

<対応案>

- イノベーション拠点「SHIP」が県内スタートアップ支援のハブ機能の役割を担う
 - ⇒・スタートアップに係る様々なステイクホルダー（県内自治体、金融機関、大学、県内外のスタートアップ支援拠点等）の横の連携を図るネットワークを創設し、「SHIP」に事務局機能をもたせる
 - ・ネットワークにおいて、スタートアップ支援に関する情報交換、連携機会の提供、新たな支援策の検討などを行う

7 コーディネーター機能（スタートアップへの支援）をどのように強化するか。

<対応案>

- 「SHIP」にスタートアップ支援のワンストップ相談窓口を設け、スタートアップの困り事を支援につなげるコーディネーターを配置
 - ⇒・コーディネーターは、各地域のスタートアップ支援拠点や自治体・関係機関等が有する支援策や専門人材を紹介するなど支援につなげる
 - ・各スタートアップ支援拠点のコーディネーター同士の連携を強化し、各拠点が有する支援策を紹介、お互いに活用を図る

8 支援の対象とするスタートアップをどこに定めるか。

<対応案>

- 別紙「静岡型スタートアップの支援（案）」

静岡型スタートアップの支援（案）

1 戦略の重点取組

① 結びつける施策に力を入れる

⇒ ・県内にスタートアップを支援できる専門人材が少ない中、関係者が連携・協調してオール静岡県でスタートアップ支援に取り組む

＜結びつける施策（例）＞

- スタートアップの困り事を、支援できる機関・人に結びつける
- 県内のイノベーション拠点の横の連携を強化し、支援策を補完
- スタートアップと県内自治体・企業・投資家とのマッチング
- 大学の研究者と会社をマネジメントできる経営者とのマッチング
- 県外スタートアップと県内自治体・企業とのマッチング（実証実験の場の提供）
- 県外のスタートアップ拠点や専門人材の活用
- スタートアップに係るステイクホルダー（スタートアップ、自治体、金融機関、大学、イノベーション拠点施設の運営者等）のネットワークづくり

② まずは成功事例をつくり、ロールモデルを横展開する

⇒ ・大きな成長が見込まれる有望なスタートアップに対して、専門家による指導・メンタリングなどの伴走支援を実施し、成功事例を創出

・支援のターゲットを明確化し、対象ごとにスタートアップが必要とする支援を実施

2 機能別の支援対象

	必要な機能	対 象	
創出	①起業家教育	中・高・大学生、 社会人、第二創業者	アントレプレナーシップ教育の 実施
	②新ビジネス創出支援	スタートアップ	※対象とするスタートアップに よって支援の内容が異なる ↓ 特性に合わせた支援の実施
育成	③ノウハウ提供		
	④ファイナンス		
連携	⑤ネットワークハブ	スタートアップ、 自治体、大学、支援 拠点、金融機関等	スタートアップに係る関係者の ネットワークづくり
	⑥コミュニティ形成		

3 スタートアップ支援の方向性

(1) 規模別のスタートアップ数

◎県内のスタートアップは小規模な会社が多いことから、県内から大きく成長するスタートアップを創出するための支援（成功事例をつくる）

⇒・有望なスタートアップに対して集中的に支援

◎将来、大きく成長するスタートアップ予備群をより多く創出するため、実証実験の場を提供するためのマッチング支援

⇒・本県の地域資源を活かした実証フィールドを幅広くスタートアップに提供

(2) スタートアップの特性に合わせた支援の方向性

対象とするスタートアップ	方向性
①大きな成長が見込まれる有望なスタートアップ ※経済的インパクトが大きいスタートアップ	まずは県内で成功事例（ロールモデル）をつくるための支援
②イノベーションを創出して、社会課題や地域課題を解決するスタートアップ ※社会的インパクトのあるスタートアップ	大きく成長するスタートアップ予備群を創出するための支援
③大学発ベンチャー	研究者に特化した支援

(3) 具体的な支援策（案）

<県内のスタートアップ>

区 分	支援策（案）
①大きな成長が見込まれる有望なスタートアップ	<p><事業加速をサポート></p> <p>○「<u>ビジネスプランコンテスト</u>」の開催と大きな成長につなげるための「<u>伴走支援</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的・社会的にインパクトのあるビジネスプランを募集し、大きな成長が見込まれる優秀な取組を表彰 ・受賞者には優勝賞金のほか、事業加速をサポートするため、メンタリングの実施、大企業やVCとのマッチング、実証実験の場の提供等のメリットを提供
②イノベーションを創出して、社会課題や地域課題解決のために起業したスタートアップ	<p><事業展開をサポート></p> <p>○県内自治体や企業を対象にした「<u>ピッチイベント</u>」を通じた「<u>実証実験の場</u>」の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町から解決してほしい地域課題を募集し、その課題解決につながるアイデアをスタートアップから募集（提案型） ・上記以外でも地域課題解決につながるアイデアも併せて募集（自由型） ・自治体首長や企業経営者等が参加するピッチイベントを開催し、マッチングした自治体・企業が実証実験の場を提供
③大学発ベンチャー	<p><起業家精神・起業後の経営等をサポート></p> <p>○研究者に対するアントレプレナーシップの啓発と教育</p> <p>○会社をマネジメント出来る人とのマッチング</p>
①～③共通	<p>○起業する前の資本政策や経営に関する教育支援</p> <p>○スタートアップ立上げ時に必要な支援（会計士、税理士相談等）の実施</p> <p>○優先調達に係る仕組づくり</p>

<県外のスタートアップ>

○首都圏等のスタートアップに対し、本県の地域資源を活かした実証実験の場を提供

⇒ 県内自治体や企業とのマッチング機会の創出

（例）・自治体や県内企業を対象にしたピッチイベントの開催 ※上記②

・首都圏等のイノベーション拠点に出向き、スタートアップに向けて本県のPRイベントを実施

○取組方針（修正前・修正後）

	必要な機能	取組方針（修正前）	取組方針（修正後）
創出	①起業家教育	○大学生に対する実践的アントレプレナーシップ教育の実施	○高校生や大学生に対する実践的アントレプレナーシップ教育の実施
		○中学生・高校生段階における早期の起業意識醸成	○初等中等教育段階におけるアントレプレナーシップ醸成
		○社会人へのアントレプレナーシップ教育機会の提供	○社会人へのアントレプレナーシップ教育機会の提供
		○スタートアップ型第二創業の創出支援	
	②新ビジネス創出支援	○各支援機関・自治体で実施している支援との連携を促進	○各支援機関・自治体が個別に実施している支援が一通貫のプログラムとなるよう連携を促進
		○各機関の支援が一通貫のプログラムとなるよう運営	
		○スタートアップと県内自治体・企業とのマッチング支援	○スタートアップを支援する専門人材の育成
		○支援者のスタートアップ型ビジネスへの理解・知識向上を支援	
○起業後の成長ステージにおける実践的な支援を学ぶ機会の提供			
育成	③ノウハウ提供	○県内自治体の支援策に不足する部分への県支援策の立案・実行	○県内全域でスタートアップの成長に必要なノウハウの提供
			○スタートアップの特性に合わせた支援の実施
	④ファイナンス	○地域の金融機関、県内外のベンチャーキャピタル等との連携促進	○スタートアップの資金確保に向けた支援の実施
		○県内スタートアップの資金確保に向けた支援体制の整備	
		○起業前における資本政策の知見の習得機会の提供	

	必要な機能	取組方針（修正前）	取組方針（修正後）
連 携	⑤ネットワーク ハブ	○先行する浜松市の施策やコミュニティと他地域との 連携促進	○県内外の自治体、スタートアップ支援機関との連携 促進
		○県外の自治体、スタートアップ支援機関との連携促進	
		○県外の専門家（士業）につながる人的ネットワークの 形成	○県内外の専門家（士業）につながる人的ネットワー クの形成
	⑥コミュニティ 形成	○コミュニティに必要な機能等の検討・整理	○スタートアップが気軽に相談でき、各種支援につな がる コミュニティの形成
		○既存施設を活用し、スタートアップのニーズに即した機 能の整備	
		○スタートアップが気軽に相談できるコミュニティ運営を サポート	
		○コーディネーターを通じた相談対応、支援事業や専門 家の紹介	
			○身近なロールモデルを知り・交流するためのイベント 実施

○具体的な取組（案）

	必要な機能	取組方針（修正後）	具体的な取組（案）
創出	①起業家教育	○高校生や大学生に対する実践的アントレプレナーシップ教育の実施	○学生自身がアイデアを考え、それをビジネスへと発展させるための実践的な学びの機会の創出（新） （例）・県が実施するジュニアプロコンや民間が実施する高校生等向けビジコンでのアイデアを社会実装する取組 ○高校生と大学生による広域的な「起業部」の創設（新） （例）・社会や地域の課題解決に向けたビジネスプランの研究等
		○初等中等教育段階におけるアントレプレナーシップ醸成	○高校の探究活動において産業界との連携や、持続可能な地域社会づくりに挑戦する取組の発掘（表彰）等の実施 ○ジュニアプロコンの実施 ○スタートアップ企業による出前授業や県先端産業プロジェクト等の紹介など、学校教育機関との連携の推進（新）
		○社会人へのアントレプレナーシップ教育機会の提供	○起業に興味のある社会人向け（第二創業者を含む）にアントレプレナーシップ教育に関する講座を実施（新） ○大学と連携し、研究者に対するアントレプレナーシップの啓発やアントレプレナーシップ教育を実施（新）
	②新ビジネス創出支援	○各支援機関・自治体が個別に実施している支援が一貫通貫のプログラムとなるよう連携を促進	○スタートアップ関係者（県内自治体、金融機関、大学、スタートアップ支援拠点等）のネットワーク（以下「ネットワーク」という。）を構築し、各支援機関や自治体がスタートアップ支援をお互いに補完し合う仕組みづくりを構築（新）
		○スタートアップと県内自治体・企業とのマッチング支援	○TECH BEAT Shizuoka でのマッチング支援 ○SHIPにおけるピッチイベントの開催 ○県内自治体の首長や企業経営者等を参加者としたピッチイベントの開催（新） ○公共調達の仕事づくり（新）
		○スタートアップを支援する専門人材の育成	○スタートアップ支援者向けに実践的な支援内容を学ぶ機会を提供（新）

	必要な機能	取組方針（修正後）	具体的な施策（案）
育成	③ノウハウ提供	○県内全域でスタートアップの成長に必要なノウハウの提供	<ul style="list-style-type: none"> ○大学発ベンチャーの発掘と事業化支援 ○インキュベートセンターの運営 ○各支援機関・自治体が有する支援内容をマップ化。必要な支援がどこで享受できるか見える化し、ネットワークを活用したサポート体制を構築（新） ○「SHIP」にスタートアップ支援のワンストップ相談窓口を設け、スタートアップの困り事を支援につなげるコーディネーターを配置（新） ○大学発ベンチャー協議会を通じて、大学等有する社会実装の取組、ノウハウを共有（新）
		○スタートアップの特性に合わせた支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな成長が見込まれる有望なスタートアップに対して、専門家による指導・メンタリングなどの伴走支援を実施し、成功事例を創出（新） ○スタートアップに幅広く実証実験の場を提供するため、自治体や県内企業向けのピッチイベントを開催（新） ○研究者と会社をマネジメント出来る人とのマッチング支援（新） ○スタートアップ立上げ時に必要な支援（会計士、税理士相談等）を実施（新）
	④ファイナンス	○スタートアップの資金確保に向けた支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○成長のフェーズに合った資金調達が可能となるよう、エンジェル投資家やVCとのマッチング支援（新） ○資金調達目標の設定の考え方等を習得できる実践的セミナー等を開催（新） ※県独自のVCの創出については、東京都等の他自治体の事例などを参考にして、その可能性を含めて研究する
		○起業前における資本政策の知見の習得機会の提供	○起業を目指している者に向けた資本政策講座の実施（新）

	必要な機能	取組方針（修正後）	具体的な施策（案）
連携	⑤ネットワーク ハブ	○県内外の自治体、スタートアップ支援機関との連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ○県と県内スタートアップ支援拠点で構成する「静岡県スタートアップ連絡会議」を設置 ○ネットワークを構築し、スタートアップ支援に関する情報交換、連携機会の提供、新たな支援策の検討などを行う（新） ○「SHIP」が県内スタートアップ支援のハブ機能の役割（ネットワークの事務局）を担い、関係機関の連携を推進（新）
		○県内外の専門家（士業）につながる人的ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○「SHIP」にスタートアップ支援のワンストップ相談窓口を設け、スタートアップの困り事を支援につなげるコーディネーターを配置（新）【再掲】 ○県内外の支援拠点の関係を強化し、専門人材や経営人材のマッチングにつなげるネットワークを構築（新）
	⑥コミュニティ 形成	○スタートアップが気軽に相談でき、各種支援につながるコミュニティの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域においてスタートアップと支援者が有機的につながるコミュニティが形成されるよう、ネットワークを活用したサポート体制の構築（新） ○「SHIP」にスタートアップ支援のワンストップ相談窓口を設け、スタートアップの困り事を支援につなげるコーディネーターを配置（新）【再掲】 ○首都圏を含め、県内外にいる専門人材・経営人材とのマッチング支援（新）
		○身近なロールモデルを知る機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○スタートアップ成功者との交流や、身近なロールモデルを知るイベントの開催（新） ○県内で先行する事例をまとめた事例集の作成（新） ○大きな成長が見込まれる有望なスタートアップに対して、専門家による指導・メンタリングなどの伴走支援を実施し、成功事例を創出（新）【再掲】